2018年3月11日

福音書からのメッセージ

「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」（ヨハネによる福音書6章9節）

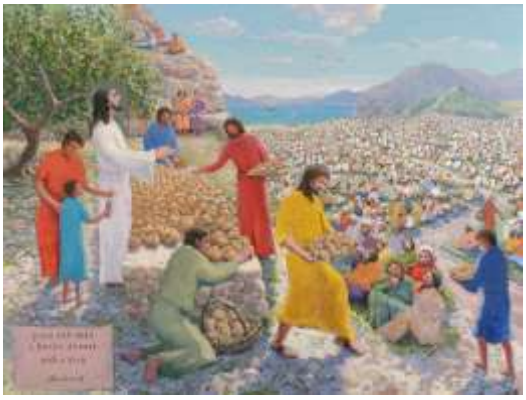
今日の福音書には、イエス様が5つのパンと2匹の魚で5000人の人たちを満腹にした記事が書かれています。ヨハネによる福音書には、そこに一人の少年が登場します。この時代、子どもは取るに足らない者として、数にも数えられませんでした。この少年は、誰かの奴隷だったと思われます。

彼は大麦パンと魚を持って、イエス様の元に来ました。わざわざ大麦パンと書かれています。わたしたちが普段口にするパンの原料は、だいたい小麦です。大麦はパン作りには適していません。大麦で作ると、パンはふっくらと膨らまず、カチンコチンになってしまいます。

ユダヤでは、大麦パンを家畜や奴隷に与えていたそうです。普通の大人は、大麦パンなど食べませんでした。しかしこの奴隷の少年は、そのような大麦パンと魚を、イエス様に差し出そうとしたのです。そして聖書は、少年とは対照的な二人の弟子の姿も描きます。

一人目の弟子フィリポは、イエス様に「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と尋ねられ、答えます。「こんな大人数、食べさせることなんてできやしない。少しずつ食べさせるとしても、200デナリオン(200万円くらい)分のパンがあっても足りやしない」。またアンデレは、大麦パンと魚を抱えてやってきた少年を見てこう言います。「こんな大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」。

この少年は、イエス様の前に出るのに「ふさわしくない」と思われていました。



また普段家畜が食べるような大麦パンなどイエス様には「ふさわしくない」。そのわずかな量も、この群衆には「ふさわしくない」。

「ふさわしくない」。そのような思いを、わたしたちも持つことはないでしょうか。自分に、そして他人に対して。自分はこんなことをするのに値しない。あの人はそんなことするべきではない。わたしたちが自分や他人にそう思うこと、それは、神さまの力を信じていないことにもつながるのです。

イエス様は、そんな大金はないとあきらめる弟子よりも、またこんなわずかなもの持って来ても意味はないという弟子よりも、今持っている全てを惜しげもなく差し出す少年を、「良し」とされたのです。人間の目には「ふさわしくない」ものを、イエス様は祝福し、人々を満たすものにかえてくださったのです。

神さまを信じましょう。神さまはわたしたちがささげる小さな行い、わずかなささげもの、貧しい祈りを待っておられます。それらを神さまは受け取り、祝福し、用いてくださる。驚くべき力をもって、わたしたちの賜物を用いてくださるのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/